

「 草書の学習 ～書譜を読む～」

【はじめに】

授業者所属・職・名前 埼玉県立上尾高等学校 教諭 佐藤 千春
(対象 第2学年 書道Ⅱ選択者)
(科目 書道Ⅱ)

【単元設定の理由】

書道Ⅰでは、「蘭亭序」の現代語訳を読み、対話的な学びの中で、書聖・王羲之への親近感を高める生徒が多く、書よさや価値を学ぶことができた。ここでは、主体的・対話的で深い学びを通じて「書譜」の内容を解説し、その価値を生徒自身で見出すことができるよう、本単元を設定した。「書譜」の現代語訳を読み解くことは、学習内容として難しさを感じる生徒も多いと考えるが、他者と協力して理解を深めることで、「書譜」の全篇を読み解くことが可能となり、書論への理解を深めることができる。草書の成立や特徴を理解し、草書の名筆として知られる「書譜」の学習を通じて、鑑賞と表現の能力を高め、書よさや価値を感受し、主体的に書の創造的な活動に取り組む態度を養いたい。

【学習指導要領との関連】

書道Ⅱの目標

- (1) 書の表現の方法や方式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

- ・ A表現 (2) 漢字の書 ア
 - (ア) 表現形式に応じた全体の構成
 - (イ) 感興や意図に応じた個性的な表現
- ・ A表現 (2) 漢字の書 イ
 - (ア) 漢字の書を構成する様々な要素
 - (イ) 古典の特徴と用筆・運筆との関わり
- ・ A表現 (2) 漢字の書 ウ
 - (ア) 古典に基づく効果的な表現
 - (イ) 変化や調和等による全体の構成
- ・ B鑑賞 (1) 鑑賞 ア
 - (ア) 作品の価値とその根拠
 - (イ) 生活や社会における書美の効用と現代的意義
- ・ B鑑賞 (1) 鑑賞 イ
 - (ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

- (イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化
- (ウ) 漢字の書の特質とその歴史
- (エ) 書の美と時代、風土、筆者などとの関わり

【育てたい資質・能力】

校訓である「文武不岐・自主自立」を体現できる生徒の育成を目指し、生徒が勉強にも部活動にも励める環境づくりを行っている。自ら考え、社会に貢献できる社会人の育成を目標として様々な行事や進路指導にも力を入れている。書道の授業を通じて、自ら課題を発見し解決していく力や他者とのコミュニケーション能力の向上、書を愛好する心情を育てる中で、他者への思いやり、伝統や文化を大切にす態度や生活の中にあふれる美に対して自ら関わりを持ちながら生活していくための豊かな感性を育てたい。

1 単元名

「 <草書> 書譜を読む 」

2 内容のまとめ

・「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

3 芸術の目標と評価の観点及びその趣旨

	(1)	(2)	(3)
目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(高等学校学習指導要領 P. 141)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙5 P. 3、4)

4 書道Ⅱの目標と評価の観点及びその趣旨

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成する。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	書の表現の方式や形式, 多様性などについて理解を深めるとともに, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領芸術偏 P. 310)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現や形式, 書表現の多様性について理解を深めている。 書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための技能を身に付けて, 表している。 	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい深く捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校芸術(書道) P. 89 を参考に作成

5 内容のまとまりにおける単元構成

「B鑑賞」(1)「書譜を読む」 総時間数 8時間

単元①: 鑑賞① (「書譜」の鑑賞と内容理解) 全2時間 【本単元】

単元②: 鑑賞② (「書譜」の内容について発表準備をする) 全4時間

単元③: 鑑賞③ (「書譜」の内容について班ごとに発表する) 全2時間

6 単元目標

(1)「知識及び技能」

・書的美と時代, 風土, 筆者などとの関わりについて理解する。

(2)「思考力, 判断力, 表現力等」

・作品の価値とその根拠について考え, 書のよさや美しさを感じて捉える。

・生活や社会における書的美の効用と現代的意義について考え, 書のよさや美しさを感じて深く捉える。

(3)「学びに向かう力, 人間性等」

・「書譜」を読み, その内容について主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組む。

7 内容のまとめりごとの評価規準

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。 	<p>主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解を深めている。 ・漢字の書の特質とその歴史について理解を深めている。 ・書の美と時代，風土，筆者などに関わりについて理解を深めている。 		

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.91 を参考に作成

8 単元の評価規準

(1) 「知識・技能」

- ・書の美と時代，風土，筆者などとの関わりについて理解している。

(2) 「思考・判断・表現」

- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。
- ・生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えている。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・「書譜」のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、「書譜」の内容理解について主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

9 指導と評価の計画

- ・年間授業時数・・・ 70時間 ・「B鑑賞」・・・ 8時間（鑑賞領域のみでの単元の授業数）
- ・本単元の配当時数・・・ 2時間

(1) 単元の指導と評価の計画（概要）※2時間連続の授業として設定している。

単元	時間	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			知		思	態
鑑賞①	第1次	本単元の見通し				
		観点の確認①				
	2時間	鑑賞①（直観的鑑賞）			◎	
		意見交換①			◎	◎
	本時	観点の確認② （時代や背景，内容や形式等と地域との関わり等）	◎			
		鑑賞②（書譜全篇を読み解く）				
	意見交換② （内容の確認）	●		●	◎	
	自己評価			●		
	学習のまとめ				●	
	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価		◎ ●		◎ ●	◎ ●

(2) 本単元における観点別学習状況の評価方法

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識	知 ・書の美と時代，風土，筆者などとの関わりについて理解している。	○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし，書の美と時代，風土，筆者などとの関わりについて，おおむね理解している。 ◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし，書の美と時代，風土，筆者などとの関わりについて，相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して実感的に感受し，理解している。 ◆書体の変遷や書風の変化等についてICTを活用して具体例を示すなどして，自身の構想・工夫の過程やこれまで学習したことを振り返らせることで，書の美と時代，風土，筆者などとの関わりについて，実感的に感受し，理解できるよう支援する。

思考・判断・表現	思	<p>・作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>○作品の価値とその根拠について考え、書よさや美しさをおおむね味わって捉えるとともに、自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◎作品の価値とその根拠について自らの生活と関わらせて考え、書よさや美しさを深く味わって捉えるとともに、自らの考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◆意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、書よさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
	思	<p>・生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深く捉えている。</p>	<p>○生活や社会における書の効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって捉え、おおむね自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◎生活や社会における書の効用と現代的意義について自らの生活と関わらせて考え、書よさや美しさを深く味わって捉え、自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。</p> <p>◆生活や社会の中で書がどのように生かされているかを振り返らせ、ICTを活用して生活や社会で書が生かされている具体例を示すなどして書よさや美しさを味わい捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態	<p>・「書譜」のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、「書譜」の内容理解について主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>○「書譜」のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、「書譜」の内容について、主体的に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎「書譜」のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、「書譜」の内容理解について自らの学習を調整しながら、主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書捉えて深く考えようとしている。</p> <p>◆学習した「書譜」の書風や表現効果、内容理解、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方や考え方を振り返らせ、自他の作品のよさや美しさを感じ、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるように支援する。</p>

全高書研公開用 事例②参考で作成

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

ア「知識・技能」

(ア) 知識

(評価対象) ワークシート、活動の様子、意見交換における発言

(学習活動) 「観点の確認」「鑑賞」「意見交換」「自己評価」「単元の学習のまとめ」

イ「思考・判断・表現」

(評価対象) ワークシート、作品、活動の様子、意見交換における発言

(学習活動) 「観点の確認」「意見交換」「自己評価」

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

(評価対象) ワークシート、活動の様子、ICT活用した成果物(発表資料等)

(学習活動)「観点の確認」「鑑賞」「意見交換」「自己評価」「発表会」「単元の学習のまとめ」

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術(書道)P.56、57 およびP.59、60を参考に作成

(4) 本時における学習過程と評価の具体

単元①「書譜の鑑賞と書譜を読む」第1次(2時間)の学習計画【本時はその1・2時間目】

(「B鑑賞」のみでの単元の例)

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点 支援内容	評価の方法		
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			知	思	態	
第1次	導入 15分	○本単元の見通し ・本単元の流れを確認し、本単元で身に付けたい課題等、自身の学習の見通しについて考え、ワークシートに記録する。	・本単元の流れ及び本時の学習活動について確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。			観
		○観点の確認① ・草書の成立やその特徴などについて理解し、ワークシートに記入する。 ア 名称 イ 筆者 ウ 作品内容 エ 作品概要	・教科書や画像等を効果的に活用し、書体の変遷を確認させ、草書の成り立ちや時代背景などについて実感的に理解できるように働きかける。	ワ	ワ ◎	観
		○鑑賞①(直観的鑑賞) ・書譜を鑑賞し、直観的に感受した作品のよさや美しさ、その印象(表現効果)をもたらす根拠について考えたことをワークシートに記録する。	・画像と複製本で作品を示し、既習の書体や古典の線質、字形、構成などと比較して考えるように働きかける。 ・既習の書体や古典の画像を利用し、生徒がその特徴などを比較しながら、直観的に捉えた作品の第一印象(表現効	ワ		ワ

		<p>○意見交換①</p> <p>・書譜を鑑賞した第一印象について適切な用語を用いて話し合い、他者の感じ方や捉え方、考え方から感じ取り、他者の意見をワークシートに記録する。</p> <p>(3～5人のクロストーク)</p>	<p>果)をもたらす根拠について、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせて考えることができるよう支援する。</p> <p>・書を構成する要素(線質・字形・構成等)を踏まえて、書譜の特徴と表現性や表現効果について考えることができるよう支援する。</p> <p>ア 行構成 イ 墨の潤濁 ウ 連綿や線質</p>	ワ	ワ ◎	観 ◎
展 開	75 分	<p>○観点の確認②</p> <p>・書譜の現代語訳を読み解き、理解を深める。読みながら身に付けた知識・観点を改めて確認し、ワークシートにまとめていく。</p> <p>○鑑賞② (書譜全篇を読み解く)</p> <p>・書譜の第1篇から第6篇を6つのグループに分け、それぞれの篇について、グループごとに現代語訳を読み解いていく。</p> <p>(3～5人のグループワーク)</p>	<p>・書譜の現代語訳を読み解くことで、書論への理解を深めることができるよう支援する。</p> <p>・書譜の現代語訳を読み、内容理解を目指す。新たな人物名や用語などについて説明プリントなどを活用し支援する。</p> <p>(1班→書譜第1篇を読む ～6班→書譜第6篇を読む)</p>	ワ ◎		観
		<p>○意見交換②</p> <p>・読み解いた現代語訳について、自身の理解と他者の考えを共有しながら、書譜の内容理解を深めていく。</p> <p>・理解の難しい箇所や新たな用語について、各自で調べ、グループ内で話し合い、互いに書譜の内容理解を深め、ワークシートに記録する。</p> <p>(3～5人のグループワーク)</p>	<p>・グループ内で、内容についての理解を深めるとともに単元③での発表を見通した活動となるよう、声かけを行いながら、グループの話し合いが活発になるよう支援する。</p>	ワ ●	ワ ●	観 ◎

ま と め	10分	○自己評価 ・共有された意見を通して他者の感じ方や捉え方、考え方に触れるとともに、自身の書譜の現代語訳についての理解を振り返る。 ○学習のまとめ ・本単元の学習を振り返り、鑑賞の学習内容や書譜の現代語訳を読んで感じたことを踏まえ、適切に言語化してまとめを記入する。	・グループ内で自身と異なる他者の感じ方や捉え方、考え方を認め合い、自身の考えを振り返ったり、修正したりするとともに本時の学習活動を振り返ることができるよう働きかける。 ・本単元で学習した内容の振り返りを行い、次時の学習内容に繋げることができるよう、ワークシートに記録させ、主体的にグループ活動に参加できるように支援する。	ワ	ワ ●	ワ
	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価			◎ ●	◎ ●	◎ ●

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P. 47～48、P. 59～61、P. 64～76 を参考に作成

10 今後の学習計画

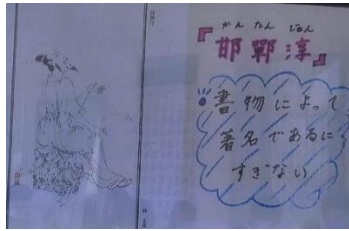
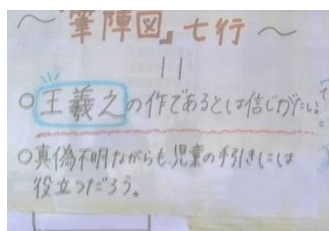
本時で読み解いた書譜の内容について、班ごとにまとめ発表会を開催する。他者にわかりやすい発表となるように各班で工夫できるよう、支援を行いながら、生徒の発表準備を進める。発表時間は、1班5～7分とする。発表するための媒体は、iPadのスライドや紙芝居のような手書きの資料、パソコンなどで作成してきた資料など生徒に自由に選択させている。他の班の発表を聞くことで、書譜の全篇を読み解くことができるようにすることを目指しているため、発表が終わるごとにメモや発表者の評価、感想などを記入する時間を1～2分確保している。

発表会後の授業展開では、書譜の内容の中から、好きな言葉を4字～5字を1か所選び、半紙に表現させ作品展示している。また、「書譜」の中から選んだ言葉の意味や作品の意図、これまでの「書譜」の学習を振り返っての感想等を硬筆ペンで清書させ、作品とともに名票として展示している。その後、相互に作品鑑賞し、対話的な振り返りを行っている。

11 参考資料・参考文献等

- ・光村図書「書Ⅱ」
- ・高等学校学習指導要領解説（芸術偏）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・全日本高等学校書道教育研究会 公開用 学習指導案

【発表の様子と生徒が作成した発表資料より】



【配布資料】

題名【 】 著者の氏名【 】 著者の住所【 】 著者の電話番号【 】
 発行年【 】 発行月【 】 発行日【 】

◆この表は、読書感想文の作成に活用してください。◆

表紙
 目次
 本文
 終り

表紙
 目次
 本文
 終り

書道Ⅱ 書譜を読む		年	組	氏名					
第一編	内容(メモ)	C	B	A	理解度	C	B	A	評価(メモ)の理由
第二編		C	B	A		C	B	A	
第三編		C	B	A		C	B	A	
第四編		C	B	A		C	B	A	
第五編		C	B	A		C	B	A	
第六編		C	B	A		C	B	A	

【学習の振り返り】 書譜を読み、新たにわかったことやグループワークを終えての感想など。